

第3回 徳島市新ホール建設候補地検討会議 会議録

日時 平成29年4月24日（月） 午後2時～午後3時15分
場所 ホテル千秋閣 7階 鳳の間
出席者 15名（委員7名、事務局ほか）
傍聴者 21名

1 開会

2 資料1の説明

3 議事

(1) 建設候補地の検討について

資料2～3 新ホール建設候補地検討資料

会長：

資料の説明について、確認事項や質問事項はあるか。

A委員：

このプランは、大ホールと小ホールの人数は何人で設定したのか。

事務局：

この配置イメージのプランでは、大ホール1, 500席、小ホール200席で設定している。小ホールの部分を地下に配置する可能性もあるが、現在のプランの一例では、小ホール200席を平面に配置という考え方で示している。

B委員：

以前の提言の時の、大ホール1, 800席、小ホール500席というのは、この状況では厳しいということなのか。

事務局：

旧動物園跡地については、面積的に余裕があるので対応可能と考えられるが、文化センター、駅西については、日影規制の緩和ができれば、客席の配置を3階席、4階席と高くすることで、客席数をもう少し増やすことは可能と考えられる。

会長：

大ホールの舞台のサイズがどれくらいかによって、ホールの規模が決まってくる。奥行はどれくらいか。

事務局：

この配置イメージのプランでは、奥行が15mから16mになっている。

会長：

特に、文化センター敷地のプランは、奥行の確保が難しいのではないか。

B委員：

現在のプラン例でいえば、文化センター敷地の配置が一番厳しいということか。

事務局：

文化センター敷地は、土地の形状から舞台の奥行と客席のバランスが一番厳しい。ただ、ホワイエやロビーなどの共通エリアを工夫することによって、若干増やせる可能性はある。

会長：

形状的に一番厳しいのは文化センター敷地なので、そのサイズを他の候補地に当てはめている。

C委員：

土地の概算額は、文化センター敷地が市有地以外の部分について1.9億円、駅西は5.9億になっているが、これは買上げた場合の想定額か。

事務局：

路線価で算出した価格を参考に示しており、実勢価格とは異なる。

文化センター敷地は、県有地なので売買のほか交換等いろんな可能性があるが、ここでは、一応目安として路線価での算出額を示している。

会長：

あくまでも評価額であって、買取りする時の価格ではない。

公示価格はこれの1.2倍くらいになる。しかし、公示価格では買えないので、実際に買う場合は、何倍かになってしまうかもしれない。売りたい人と、買いたい人で全然違うので、そういうものだと考えてもらいたい。

D委員：

優先順位がどうなのかは非常に難しい。

文化センター敷地を軸にしてホール席数1,500席、200席という話が出たが、駅西、旧動物園跡地なら、最大の座席数でどれくらいの金額なのか。1,500席、200席ありきではなく、最大でどのくらいになるかを数字に出したほうがいいのかと思う。

会長：

例えば、駅西で2,000席のホールが建てられるのかという質問だが。

D委員：

日影の規制もあるだろうが。

事務局：

大ホールの座席数を検討する場合、客席を3階席、4階席に配置することは可能ではあるが、見え方の問題、聞こえ方の問題などの様々なことを検討しながらバランスを考えると、2,000席というのは現在の面積では少し厳しいと考えている。

会長：

建たないことはないが、大ホールとして望ましいかどうかである。

D委員：

1,500席、200席が現状把握としては、ちょうどよいということか。

会長：

ちょうどよいかどうかは、この段階での議論ではなく、場所が決まってからの議論によるので決着はしていない。敷地を決める段階で、建てられるかどうかというと、お金の問題やふさわしいかどうかの問題などいろいろあるが、建てられないものではない。

旧動物園跡地についても、席数を増やせば建築面積が増え、その分床面積が増えるので、建設単価はほぼ同じくらいになる。地下化する分が増えるほど単価は高くなるが、上に積んでいく分については、ホールの4階くらいまでならそんなに変わらないだろう。

A委員：

あまり変わらないと思う。文化センター敷地、駅西は隣接地が近いので仮設の費用がかかると思う。

会長：

深く掘れば、地下水の排水の問題とかいろいろ出てくる。

B委員：

以前に提言されたことはどうなるのか。提言のとおりとはならないのかもしれないのか。

会長：

あくまでも一つの事例なので、それで作ると決まったわけではない。

B委員：

提言を基本に置いて考えていくのか、単に場所を考えてもう一度考えましょうということなのか。

会長：

提言のなかでも1,800席の案と、1,200席の案と両方出ている。その中間の1,500席は、あくまでも一つの事例であるが、まだどちらで作るかは決まっていない。

事務局：

配置イメージのプランは、あくまでも3つの敷地の広さや形状での評価をしていただくための一つの例として示している。

会長：

標準的なサイズが入ると、こんな感じになるという事例である。

副会長：

駅西の図面を見ると、共通エリアがかなり狭い感じになっている。仮に、駅西で共通エリアを広くして、小ホール300席を造るとすると、大ホールの下の部分を掘って造るという感じになるのか。

事務局：

いろんなパターンが考えられるが、可能性としては小ホールを地下に造るか、2階以上に上げるような配置も考えられる。

会長：

共通エリアが小ホールの下にあるようなプランもありえる。

副会長：

共通エリアの面積がどの程度必要かはイメージがわからないが、駅西のプランは、他と比べて共通エリアが狭くなっているのので、混雑感はないのか。

事務局：

このプランでは、大ホールと小ホールの配置の関係で、共通エリアがこのような配置となった。

副会長：

今後の設計次第で、設計を変えれば当然コストも嵩んでくるということか。

会長：

このプランは、大小ホールを平面に配置しているので、うまく層を分けていけば空間はとれるだろう。

C委員：

駅西については、買取りが前提として金額の見積もりが出ているが、賃貸の可能性はないのか。

事務局：

JRとは、土地の買取りか賃借かの話には至っておらず、そのような可能性はあると考えている。

A委員：

駅西のプランで、配置図にある三角マークが出入口と思うが、駅の西隣というメリットから言うと、図面でいうと右側からの駅側からのアクセスが重要である。そのあたりも、JRと話ができているということなのでマークが入っていないのか。

事務局：

駅側からの動線については、JRとの協議は必要となるが、例えば駅から立体駐車場、ホールへと続く歩行者用通路を作るプランも考えてみる価値はある。ホール利用者の利便性に繋がることは、当然検討しなければならないと考えている。

A委員：

駅西に決まるのであれば、是非やってほしい。

会長：

駅にとってもメリットが高いので、是非考えるべきことである。いわゆる上空通路を繋げる、駅の2階と繋げるという方法が考えられる。

C委員：

コストに関しては、3つの候補地とも今のところは大きな差はなく、そんなに変わらないという考え方でいいのか。

会長：

トータルコストか、あるいは建物のコストか。

C委員：

全体のコストである。

事務局：

全体のコストの考え方だが、ホールの建設に関しては、他都市の事例からそれに基づく建設単価を概算の目安で示している。しかし、土地や駐車場施設、既存建物の移設に関する費用については、不確定な要素が多いので、現段階での総事業費は不明である。

D委員：

金額コストについては不確定ということだが、そのまま最終的に我々は結論を出すということなのか。

会長：

5月11日には意見書案を出して、5月17日には意見書を市長に出すという予定である。

D委員：

メリットやデメリット、優先順位など、皆さんいろいろ考えていると思うが、席数もきちんと決まらず、そういう中で場所を一つに絞るか1、2、3と順位をつけるかは別として、場所だけを最終的に報告するという事なのか。

会長：

悩ましいところであるが、優先順位なり、次に市が打つべきことを決めないと、市は動いて行けないだろう。それは、市がどういう形で次に動いていくのかということ提言することだと思われる。それは、決定という意味ではなく、検討してくださいということになるかもしれない。

こういうことを検討して、こういうプロセスで決定してください、というようなことも可能であると思う。

E委員：

何を優先して考えるかということだが、市民の目線からすれば、早くというのが大きな要素だろう。もう一つは、納税者の立場から言えば、156億円を超えないということだろう。

旧動物園跡地というのが、その2つに適しているようにも思える。しかし、経費が安いのはいいが、住宅地であるため、反対の意見を持った個人がいた場合、係争や差し止め等に発展すると大変なことになる。旧動物園跡地は周辺の活性化にも繋がらないし、住民の意向を考えるとハードルも非常に高く、状況によれば長期化する懸念もあるため、候補地として難しいのではと思う。

駅西については、今は経費額がはっきりしないが、JRの受電設備などの施設の撤去を含めても150億円までに収まるのなら、市街地の活性化としての意味は大きいと思う。今日ポッポ街を歩いてみると、県都の駅前なのにシャッターがたくさん降りている。単にホールを造るだけでなく、駅前の活性化を含め、人の流れや他の波及効果を含めて考え、150億円以内になるならいいと思う。自分にはわくわくするし、イメージも沸きやすい。

文化センターは、古いところを掘り返して建て直すのはイメージとしてもどうかと思う。市民の方も同じ意見が多いのではないかと思う。

ただ、駅西が、これからの交渉で色々な問題が発生し、西新町のときと変わらない額になるなら、小ホールが狭いという課題があるかもしれないが、文化センターに建て直す。また、それがだめなら旧動物園跡地ではどうか。旧動物園跡地は安くあがるかもしれないが、建設の目途が立たなくなるような懸念も感じる。

C委員：

音楽ホールということは非常に大切だが、体育館も老朽化で建て替えという話や西新町再開発のこともある中で、徳島市が市内中心部をどのようにしたいのか、ビジョンやイメージを伝えてもらえれば造りやすい。バラバラにひとつずつ建物を造っても、市のこれからの構想の中で、どのように展開したいのか教えてもらえれば、この場の議論もしやすくなる。ビジネスでいう経営ビジョンのようなものを教えてもらえれば、個々の事業が見えやすくなるのではないか。これを会議開始前に聞いておくべきだった。

会長：

時間をかけて議論ができて、候補地3つを含む全体のエリアでのプランがあれば非常に分かりやすかった。

B委員：

観客や創造支援エリアの利用者のことを考えると、駅西が一番便利なのは間違いない。県都にふさわしいホールと考えると、旧動物園跡地が一番立派なホールが造りやすい。大きな支障がなく、造りやすいのは文化センターである。いわゆるホールの使用者と利用者の立場で条件が違ってくる。徒歩圏内の人と列車・バスで来る人でもまた条件が違う。

また、徳島市が街をどうしたいのかがとても気になる。駅西にしても、駅を出た瞬間にホールが見えているようなら一番いいが、現状ではホールの表が見えない状態になるのはどうかと思う。県都にふさわしいホールをどう考えるか。やはり何十年後に、この場所でよかった、このホールでよかったと言えるようにしたい。

私は演奏者の立場でホールを使用しているが、旧文化センターのときは、本当にここで演奏しているのかと言われてきた。世界的なトップレベルの演奏者にも、本当にここはホールなのかと言われてきた。もっと音響のいい、いわゆる「ホール」で演奏したい。

子供に指導するときも、音が響いているから楽譜に記号がついている、音が消えたら次の演奏が始まると指導しているが、旧文化センターでは音が悪く、その

ような指導ができなかった。創造支援ゾーンも大切だが、何十年か後にでも、ここで演奏したいと言われるようなホールができたらいい。

建設場所はとても難しい問題である。ひとつは高さ、もし、1階からでなく2階からホールを造ると高さ制限がでてくる。奥行きがいくらあっても、高さ、容積がないと良いホールにならない。

また、最終的にはトータルでいくらかかるのかが大きな問題である。

会長：

用地の問題はあるが、建設費自体は90億円もいらないう議論が出ている。客席を1,800席としても、さほど金額に影響しない。用地だけの問題だと思う。先程、借地等の話もでていたが、交渉次第である。自分は、資料を見ても150億円かかるとは想像していない。

副会長：

旧動物園跡地は、市有地で広く、設計も自由に出来るし、一見良さそうだが、周辺の道が狭く、コンサートが終わって会場を出るまでに一時間以上かかるのは厳しい感じがする。

また、観客にとって観に行きやすいのはどこか。たくさんの人に観に来てもらわなければ、いくら自由に設計していいホールを造ってもあまり意味がない。観客にとって一番便利な場所がいい。

音楽ホールは文化創造の拠点ではあるが、公演が終わった後に周辺の店で飲食したりできて、お金を使うことが期待できる場所の方が経済効果としては大きい。

会長：

ヨーロッパのコンサート文化は、先に食事をして、コンサートに行くような感じがある。その雰囲気を知っていると、車でコンサートだけに行き、終わったらすぐ帰るのは信じられない。

単に便利さだけでなく、そのような楽しみ方が出来る空間を徳島市も持つべきであるとずっと感じている。何を造るにしても、人が集まってきて楽しむ場があるということは、街にとっても重要なことである。

D委員：

メリットもデメリットも元々想定内のことで、この会議で議論したことも、今までに出ていたことである。最後は、我々委員の決断に基づき、市が決断する。最後はそうするしかないと思う。

会長：

時間的には厳しいが、もう少し相談を重ねながら進めていきたい。

B委員：

鉄道高架事業は、ホールができる頃までにもっと進展するのか。

事務局：

第1回会議でも回答したが、徳島駅周辺について、徳島市はまちづくりの担当であり、まちづくり計画案を平成29年に作成することで取り組むことになっている。また、高架事業は県が中心になって進めることになっている。

C委員：

この話は、県、市、JR四国の三者にとってチャンスだと思う。県、市、JRに市民を巻き込んで一緒に考えることができれば、とても面白いものになる。

このたびJR四国の社長が徳島の人になり、鉄道を通じた四国の活性化を考えているようである。そういう人と一緒になって、この計画がひとつの起爆剤となればよいと思う。県とも、ホールを造る造らないではなく、一緒に歩んでいければ高架事業にも弾みがつくのではないかな。

会長：

四国の鉄道状況は、それなりに町と町が近いので、その点から言うともっと活用できるはずと議論されている。

A委員：

他の委員と同様、私も周りの人から様々な意見をいただいている。

客席数のことについて、1,500席と200席だが、候補地すべてにおいて、席数をそれより増加できる可能性はあると思う。ただし、駅西と文化センター敷地は、階層を高くしないといけないので、席に座って通路下を見ると恐ろしいような高さの施設になるだろう。また、この2候補地は鉄道高架が必須条件である。では、鉄道のない候補地はというと、旧動物園跡地だが道路が狭い。街の活性化からすれば駅西だが、駅の正面からホールの裏側が見える建物になる。もし、駅西に決まったら、条件をつけて設計を工夫しないといけない。

どの候補地も一長一短ありすぎてわからない。

会長：

意見は出尽くしたようだ。細かな点はあるが、今検討できる範囲は検討した。次回は、会長と副会長で意見書の文案を練っていくが、今回検討に使ってきた資料の比較検討表については、場合によっては○×△で評価をつけた形で、それに加えて、市として次に何をすべきかについて、我々なりの意見を書きたいと考えている。

これまでの委員の意見を聞いていると、今この段階で駅西を切り捨てるのは惜しいと思っているようである。しかし、よく分からない点も残っているという状況なのかと思う。そこで、もう少し数字の分かる検討が必要であるという気もしている。

その上で、平成35年度の開館がひとつの目途として決まっているので、それに向かって、我々として出来ることは何なのかを考えて提案したい。候補地を決定するのではなく、どんなプロセスで進めて行ってほしいかを記載する案にしようとも考えている。

この半年間くらいが勝負だと思っているので、その期間中にできることを検討していただくのが重要だ。このような方向でいいだろうか。もっとしっかり書くべきだという意見はあるか。

B委員：

難しい要素がありすぎて、決定は難しい。

会長：

最終的な決定はもちろん市が行うが、それまでに様々な事項を確認してもらうことが必要だ。他に、次回までに確認してもらいたいことがあれば発言してほしい。

委員：

(なし)

会長：

次回は5月11日開催だが、それまでに、市に渡す意見書案を会長と副会長で作ってみる。事前に他の委員にも目を通してもらい、5月11日の会議で内容を煮詰めていきたい。内容や書き方について要望があれば、事務局に伝えてほしい。どうだろうか。

委員：

(意見なし)

(2) その他

会長：

その他について何かあるか。

委員：

(なし)

会長：

議題はすべて終了した、事務局にお返りする。

事務局：

第3回徳島市新ホール建設候補地検討委員会を終了する。